

ラビットアイブルーベリーの 緑枝挿法について (予報)

串間俊文・函師静雄

(1982年9月30日 受理)

Propagation of Rabbiteye Blueberry (*Vaccinium ashei* Reade) by Means of the Softwood Cutting (A Preliminary Report)

Toshifumi KUSHIMA and Shizuo ZUSHI

緒 言

近年、ブルーベリー栽培と普及が進んで、米国を始め日本国内でも特産果樹としての存在が認識されてきている。しかし、栽培上での主な問題として、国内では経済栽培における苗の確保が問題となり多量の苗を有効な繁殖方法によって供給しなければならない。

ブルーベリーの繁殖は、挿木による方法が一般的であるが、それには緑枝挿法と休眠枝挿法の二つの方法があり、国内の研究では、今までに、岩垣¹⁾による緑枝挿法による試験と、岩垣ら^{2,3)}および小池ら⁴⁾による休眠枝挿法による試験の報告があって、ともに良い成績を得ている。

鹿児島大学農学部附属農場唐湊果樹園では、1971年にラビットアイブルーベリーを導入以来これまで10数年間、栽培上の問題として有効な繁殖方法について検討を行って来た。本試験は、鹿児島における緑枝挿法による経済品種の発根率の比較をみたものである。その一部を予報として報告する。

材料および方法

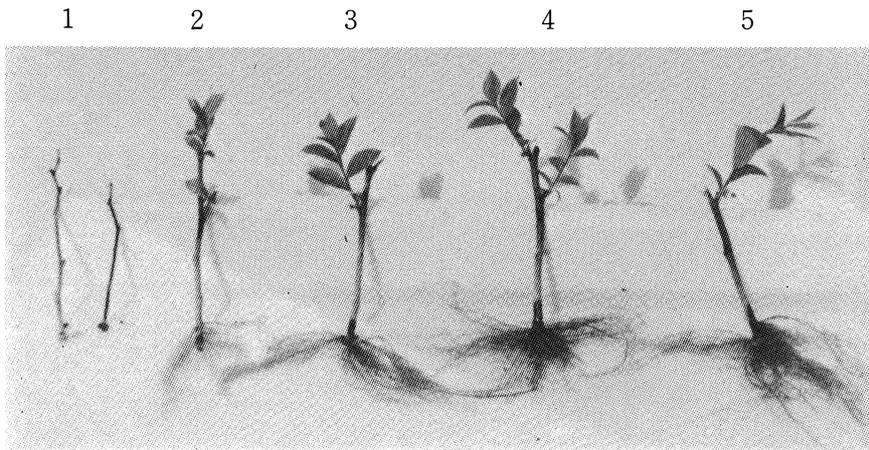
挿穂材料には、ラビットアイブルーベリーの重要品種⁵⁾である Woodard, Homebell, Tifblue の3品種を用いた。10年生樹より新梢の固まった当年枝の約30 cmの枝をとり、頂部(Top)、基部(Base)の2種類に区分した。

頂部、基部ともに長さ10 cmに切り、枝の先端から6葉をつけ、それ以下の葉をとり除いた挿穂を調整した。切口部分には、発根剤としてオキシベロン粉末を塗布し、挿穂は鹿沼土を満たした発泡スチロール製育苗箱(45 cm×30 cm、深さ5.5 cm)に、1箱当り48本(6×8)ずつ挿木した。1箱を1試験区とし、処理は、品種3、挿穂の位置(頂部と基部)2部位を組み合わせた6処理とし、乱塊法で3反覆計18箱の挿床を用いた。灌水ムラを防ぐために2週間ごとに箱の配置を替えた。

挿木は、昭和55年(1980年)6月26日に行い、発根調査は、翌56年(1981年)3月14日に実施した。発根した根量は、第1図に示したように、0:枯死、1:発根はカルスのみ、2:わずかに発根、3:発根は普通程度、4:発根多、5:発根甚だ多、の6段階の指数で表わし、箱ごとの平均値を出した。なお、本実験は、鹿児島大学農学部附属農場唐湊果樹園内のミスト室を利用した。

結果および考察

第1表に示したように、本試験では、発根率は3品種とも90%以上と高い成績を示し、品種間で



第1図 ラビットアイブルーベリー（品種 Homebell）の発根程度
 指標 0：枯死(写真なし), 1：カルス, 2：少, 3：中, 4：多, 5：甚だ多

Fig. 1. Degree of rooting of rabbiteye blueberry.
 0: dead (not shown), 1: callus only, 2: poor, 3: fair, 4: good, 5: excellent.

は発根率の差は認められなかった。部位による発根率の差は有意でなかったが、3品種とも頂部の方が基部より発根率が高かった。その差は、HomebellとTifblueでいく分大きかった。

根量からみると、品種間では、Homebell, Woodardに比べて、Tifblueの発根量がやや劣った。また、挿穂の部位では、3品種とも明らかに頂部からの挿穂の方が根量は多かった。

岩垣ら¹⁾の緑枝挿法試験では、3品種とも鹿沼土、赤玉土、バーミキュライトの用土で、80%以上の発根率が示さ

れ、その場合、品種間での発根率の差は無かったと報告されている。また、従来、休眠枝挿法では発根率が低いといわれているが、岩垣ら^{2,3)}は、休眠枝挿法で、WoodardとHomebellで80%以上の高い発根率を示し、Tifblueの発根率はやや劣ったと報告した。本試験でも、発根率は3品種ともほぼ変わらないが、根量は、Tifblueが少なかった。これは、Tifblueの挿木繁殖が他の品種に比べて、幾分難しいことを示すものと考えられる。

一方、小池ら⁴⁾は、クロマメノキ (*Vaccinium uliginosum* L.)の挿木試験を行い、鹿沼土を用い

第1表 ラビットアイブルーベリーの挿木の発根
 Table 1. Rooting of rabbiteye blueberry cuttings

品 種 Variety	発根率 (%) Rooting (%)			根 量 ¹⁾ Degree of rooting		
	頂部 Top	基部 Base	平均 ²⁾ Average	頂部 Top	基部 Base	平均 ²⁾ Average
Homebell	96.9	87.5	92.2	3.53	3.27	3.40 ^a
Tifblue	97.2	86.1	91.7	3.03	2.07	2.55 ^b
Woodard	91.7	90.3	91.0	3.73	2.93	3.33 ^a
平均 ²⁾ Average	95.3	87.9	91.6	3.43 ^p	2.80 ^q	3.10

1) 根量については、第1図を参照。
 Degree of rooting; see Fig. 1.

2) 平均値の分離は、ダンカンの多重検定 (5%) によった。
 Mean separation by Duncan's multiple range test (5%).

た緑枝挿法で、64~68%、休眠枝挿法で約95%の発根率を得たことを示し、休眠枝挿法による挿木方法がすぐれていると報じた。今後、休眠枝挿法での検討が必要であろう。

摘 要

ラビットアイブルーベリーの繁殖方法を検討するため、Homebell, Woodard および Tifblue の主要3品種の緑枝挿を試みた。この際、当年枝を、頂部と基部とに分けて挿穂を作り、発根の程度を比較した。

1) 発根率は、3品種とも90%以上であり、挿穂の部位からみると、頂部の方が基部より発根率が高い傾向を示した。

2) 根量では、TifblueがHomebellとWoodardに比べてやや劣り、また、頂部の方が基部より明らかに多かった。

文 献

- 1) 岩垣駛夫 1971 園芸学会昭和46年春発表要旨 8-9.
- 2) _____・福田 俊・松川 裕 1971 園芸学会昭和46年春発表要旨 48-49.
- 3) _____・石川駿二・加藤幸子・玉田孝人 1973 園芸学会昭和48年春発表要旨 170-171.
- 4) 小池洋男・宮川健一 1974 長野県園試報 11: 1-10.
- 5) 串間俊文 1981 鹿大農場研報 6: 1-29.

Summary

An investigation was conducted to compare the rooting capacity of the softwood cuttings concerning the three leading varieties of rabbiteye blueberry (*Vaccinium ashei* Reade), i. e., Woodard, Homebell and Tifblue. Some comparisons were also made on the cuttings obtained from the top part and the basal of the shoot.

Through the three varieties all the cuttings showed more than 90 percent of rooting. Cuttings obtained from the top rooted better than those from the base.

Judging from the degree of rooting, Tifblue was slightly inferior to Homebell and Woodard. Cuttings from the top were clearly superior to those from the base.